

# がんばってます！！新大

Vol.創刊号

発行日：平成 19 年 7 月 25 日(水)

発行：新潟大学学生ボランティア本部『ボランち。』 URL：http://www.nuvc.info/ TEL：025-262-7530 Mail：gakuserv@adm.niigata-u.ac.jp

## 「がんばってます！！新大」

### 発行開始

現在、新潟大学が全学的に、新潟県中越沖地震の復旧に向けて全力を挙げて頑張っています。この新潟大学の熱い想いを、もっと伝えてつなげていくために、「がんばってます！！新大」の発行がスタートしました。次は、あなたの番です！

## 『新潟大学中越沖地震 現地サポートセンター』開設

新潟大学は中越沖地震の一日も早い、復旧・復興を地元大学として支援するため、刈羽村に現地サポートセンターを開設しました。新潟大学と刈羽村は以前から包括連携協定を締結しており、それにもとづいて、七月十七日、長谷川学長は被災地刈羽村の村長に対して「大学としてできる支援を行いたい。」と電話で連絡し、翌日十八日には、現地サポートセンターを立ち上げました。同センターでは、新潟大学が展開している各種支援活動(学術的調査・研究、医療、ボランティア等)の現地拠点として、次のような業務を行っています。

- (1) 災害対策本部との連絡調整
- (2) ボランティアセンター等との連絡調整
- (3) 各種活動の情報及び発信
- (4) その他必要と思われる支援活動

同センターには、毎日職員三名を派遣し、現地サポートセンターの業務を行うとともに、刈羽村災害ボランティアセンターの運営にも参加しています。

十九日にボランティアチーム一員として活動した、新潟大学総務部総務課齋藤正志副課長に、現地の様子や活動状況についてインタビューしてきました。

「ボランティアセンター業務を行いながら、実際にボランティア活動もした。高齢者が着替えをしたいというので、車で家まで送ったりした。資機材班は現地に行くボランティアに軍手やヘルメット等資機材の貸し出しをする。また、5箇所の避難所のうち状態の悪いトイレがあり、トイレ掃除用具の運搬もした。しかし、今のところニーズはほぼ無い状態。集まったボランティアも56人くらいだった。」

齋藤副課長は、過去にも中越地震、7・13水害のボランティアにも参加していました。前は被災者の役に立ちたいという気持ちだけで行ったのに対し、今はボランティアの人がどうしたら動きやすいのか、新潟大学の支援活動をどのようにアピールしていくか、というような明確な意図を持って活動するようになったそうです。今後総務課では、現地と大学をつなぐ窓口、調整役として現地のサポートをしていく予

定です。(例えば、現地で被災のため休校になっている小中学校の子どもたちに対し、新潟大学としてどのように支援するのか、学務課と教育人間科学部の連携や調整役等)

現地を見てきて最も気になった事は、避難所生活者のストレスだそうです。現地では未だ上水道が復旧していない場所が多く、それに伴うストレスが大きいといえます。「話し相手になったり、遊んでくれたりする人がいると、避難者のストレスや不安はだいぶ解消されるはず。今ボランティアではそのような人を求めている。ぜひ多くの人に伝えてほしい。」と、おっしゃっていました。

(聞き手) 新潟大学学生ボランティア本部

安本典生(理・4) 柿沼美波(人文・3)

小林由季(農・2) 福野陽平(工・1)



総務部総務課 齋藤正志 副課長

大変お忙しい中、取材ありがとうございました。

# ぜひ、多くの人に伝えてほしい。